

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	
課題名	全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000 を用いた尿導電率の有用性の評価
研究期間	実施許可日～2024年3月31日
研究の対象	2022年10月～2024年3月に当院を外来受診または入院しており、尿検査で以下対象項目をすべて満たす方の中から無作為に300名抽出します。 ※対象項目：尿中窒素、クレアチニン、尿酸、ナトリウム、カリウム、クロール、カルシウム、マグネシウム、比重、pH、浸透圧
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、診断名、治療内容、実施済みの尿検査結果） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（）
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	<p>尿沈渣は尿中の有形成分（赤血球や白血球など）を確認する検査であり、顕微鏡を見て沈殿物を確認する方法や自動分析装置で測定する方法が主流になっています。この自動分析装置は尿検体少量で有形成分を測定することができますが、Sysmex社の全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000（以下、UF-5000）は有形成分を測定と同時に研究用項目として、「尿導電率」を測定しています。</p> <p>この導電率は尿の電気の通り安さを確認する項目で、主に尿の比重や電解質（尿中のイオンなど）と関連していると言われてはいますが、実用的な検査項目としては使用されていません。近年ではこの尿導電率を利用して尿中のナトリウムとカリウムの比（以下、ナトカリ比）を測定する導電計が利用されるようになってきました。このナトカリ比は食習慣の指標として近年注目されています。さらに血圧との関連や循環器の疾患などとの関連があるとされています。</p> <p>本研究はこのUF-5000の尿導電率が尿中の各種電解質（ナトリウムやカリウムなど）とどのような関係性があるのかを確認することが目的です。また、ナトカリ比以外にも、尿の電解質の結果を用いたさまざまな病気の指標との関連性も確認します。</p> <p>本研究で有用性が確認できれば、尿沈渣と同時に病気の指標と関係性がわかり、迅速に結果を報告できることが期待できます。また、このような機器で迅速に測定できれば、一般的な病院や検診の場でも同様に確認・利用することができます。</p>
研究の方法	臨床検査・輸血部に尿検査の依頼があり、すでに医師に報告した患者さんの尿検査結果を使用します。その結果と同時に測定した導電率を比べて統計処理を

	行います。
その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 0166-69-3360 旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部 野澤 佳祐</p> <p>研究責任者：旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部 奥村 利勝</p>